

午前10時00分

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 欠席委員連絡（福島委員、小野沢委員）

午前10時00分開議

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 閉会中継続調査事件

(1) 総合ミュージアム構想について

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、今月8日から10日の日程で名古屋市博物館及び神戸市立博物館へ行政調査を行ったが、各館の取組は非常に参考となり、大変有意義な調査だったと考えている。
- ・ 本件に係る行政調査報告書については、後日配付させていただくが、取り急ぎ調査内容の概要を取りまとめた資料を配付させていただいたところだ。
- ・ 本日は今回の行政調査を踏まえ、調査項目であった歴史、文化の展示方策、大人も楽しめる体験の場の提供、観光客を意識した展示方法、市民のリピーター増加施策、歴史的な価値がある建物の活用について、各委員から御意見などを伺ってまいりたいと思う。
- ・ 各委員、御発言願う。

○吉田 崇仁委員

- ・ このたび、名古屋と神戸の博物館を調査してきたが、それぞれ大変参考になる特徴があり、素晴らしい施設だったと思う。
- ・ 市民ニーズの把握についてだが、名古屋では市民の方々500人にモニターになっていただいて、意見をしっかり求めて計画に反映させていると言える。また、タウンミーティングも実施され、市民の要望を的確に把握していると感じた。本市においても、計画作成の際にはこの辺の丁寧さが大事だと考えている。
- ・ 歴史、文化の展示方策だが、名古屋では全世代をターゲットとした展示空間・展示内容、体験型展示の導入を計画されている。神戸は、デジタル技術を活用しながら映像解説やタッチパネルを導入して情報を提供していたほか、展示ケースが圧迫感を感じるなどの意見があったことから、なるべく小さくして存在感を減らし、見やすくするなど工夫が感じられた。この辺は今後の私どものミュージアムに大変参考になると感じた次第である。
- ・ どちらの博物館も、入館者やリピーターを増やすために、大変な努力をされていると感じられた。毎回この特別展やさらにはイベントなど、2、3か月ごとに開催するなど、より身近な博物館として魅力ある情報を提供しているというふう感じた。

- ・ 収蔵庫だが、資料や貴重な文化財を傷つけることなく出し入れしやすくするために、大きく設計されていたのが大変目立った。
- ・ 神戸では、大変面白いことに市民や観光客が気軽に立ち寄ることや利用されるように1階を無料で開放していた。1階はカフェやミュージアムショップなど一般のお客さんで大変にぎわっていた。気軽に入れることから、市民の利用もますます増えるのではないかというふう感じた。
- ・ 大人も楽しめる体験の場の提供について、名古屋では貴重な文化財を誰もが自由に手で触れられるという大変ユニークなアイデアだったように感じた。また、神戸ではフランシスコ・ザビエルの展示室では教科書でも有名な肖像画があったが、その横にタッチパネルがあり、タッチすると情報が出るという一体的な仕掛けは、観光客も大変楽しめる画期的な良いアイデアだというふうに参考になった。
- ・ 函館のミュージアム構想も、そうした他都市の良い点を参考にしながら計画を進めていただきたいなというふう感じた。

○遠山 俊一委員

- ・ 今の吉田委員の発言と重複する部分もあると思う。
- ・ 規模が大きくて、どこが参考になるのかちょっと戸惑った部分もあるが、今吉田委員が言われたように、まず市民ニーズの把握については、大事なことだと感じた。名古屋は平成25年に第1回のネット・モニターアンケートを行って、その後市民アンケート、そして令和3年に魅力向上基本計画を作成するまで8年間を要している。そして、次の年の令和4年にこの基本計画に意見を募集するタウンミーティングなどを行い、徹底した市民とのコミュニケーションが図られているように感じた。この後、令和11年にフルオープンになるわけだから、さらに7年間を要するという形で、かなりじっくりと腰を据えた建設になっていくだろうなということを感じた。
- ・ 函館市の場合は、博物館そのものが市民に対する認知度が低いというふうな認識を持っているので、時間をかけて徹底したアンケートや意向調査が必要だということを感じている。そのためにも、例えば、高校生や中学生に博物館の意味や重要性をきちっと把握、認知してもらうために、ここをある程度重点的に、子供たちに博物館に対するアンケートや意向調査を行うことによって、将来的にこの子供たちがアンケートや意向調査に応じたことによって、博物館に興味を持って足を運んでもらうとそういう相乗効果を期待しながら、そのようなことが大事であろうなということを感じていた。
- ・ 神戸は、博物館のサービスの充実を底支えするために、地域の歴史を解明する資料の収集に力を注いでいるという項目があった。函館市においても、博物館を整備する機会には市の中に眠っている、埋もれている資料もしくは市外に出ている資料を徹底して洗い直しながら資料収集に力を尽くすべきであろうなと感じた。
- ・ 収蔵庫については、これは博物館の整備と並行して整備も必要であって、展示物よりも何倍も収蔵するわけだから、この収蔵庫の整備をきちっと計画の中に盛り込んでほしいなと感じた。

○小山 直子委員

- ・ 今回の調査の場所が2つともリニューアルだったが、それは歴史的な建物だったり、本当に市民がアクセスしやすい立地、あるいは大学と近隣だったりという、そういう場所に立っているからこそ新築ではなくてリニューアルなのだと実感した。そういう意味では、函館とは少し違うのかなとは思

ている。

- 先ほど皆さんがおっしゃったように、市民ニーズの把握を両館とも本当に徹底して行っていて、そして、より厳しい市民の声に真正面から向き合おうという姿勢がやっぱり素晴らしいなというふうに思った。そして、高齢者や障がい者の方のためのバリアフリー化や点字ブロックの整備を進めたり、それから小さなお子さんを持つ家族なんかも来られるように授乳室やキッズスペースを考えていきたいということにも広がっているのだと思う。函館市の場合は——温度・湿度の環境整備というのは本当に大事なところだが——そういう幅広い皆さんに来ていただける、鑑賞を楽しんでいただける、そういう環境整備が必要になってくるなと思っている。
- 函館市の場合は、5館を1か所に統合したいという構想だったが、神戸も名古屋も他館と統合ということは考えていない、今ある館はそれぞれ独自の魅力と展示内容があって、それを1つにすることは考えていないというお話だった。そういう意味では、前回函館の5館を見学させていただいたが、それぞれに魅力があってそれぞれに特徴があるので、やはり5館を1つにまとめるということについては、さらに深く検討する必要があるのではないかなと思っている。5館をまとめることがどうなのかについての1つだが、名古屋では収蔵品が27万点ある中で、常時展示できるのは1,000点ほどで、それはリニューアルしてもそれほど多くはならないということだった。多分、函館の場合も、5館のものを全部まとめるものすごい数になると思うが、5館を統合した場合には展示数は今よりもずっと少なくなると思う。だから、そここのところが本当に5館をまとめることが効果的なのかどうかは、もう少し検討する必要があるかなと思っている。
- 先ほどもお話があったが、企画展、特別展——規模の違う素晴らしい特別展をされているので、あそこまでのことはなかなかできないが——展示替えを本当に数多くしながら収蔵品の魅力を市民にアピールしていてリピーターが大変多いというところは、函館市がこれから本館を建て替える上でも、いろいろ工夫していく必要があるのではないかなと思った。
- 特に名古屋は、民間事業者が実施主体となって展示やイベントをするという新しい方法も取り入れるということで、そういう民間との連携みたいなこともこれから考える必要があるのかなと調査を通して感じた。

○道畑 克雄委員

- もう意見はほぼ出尽くしたかなということもあるが、皆さんの意見に加えて私が思ったのは、名古屋——予算の規模等は全然違うが、それでも171億円をこの計画にかけるといふ部分でやはり市民の理解があってこそだろうなと思ったので、先ほど来から各委員がおっしゃっているように、博物館の存在意義や、今後やっていこうとする構想について、市民の方から丁寧に意見を聞いて、どういふものが函館にとってふさわしいのか、観光客も含めて市民の方からどうしたら見に行きたいと思っただけなのか、こういったところはやっぱり丁寧に議論をしていくべきだろうなと思った。
- 5館をどうするかという部分については、先ほど小山委員もおっしゃったが、名古屋も神戸もそれぞれテーマが特化されている分館を持っている。函館も現状でいくと、例えば見にくる方がどちらかというといふ少ないという話もされているが、もっとその展示内容を本来はこういうふうな展示すべきでないかなど、もっとそういったところまで突き詰めて考えていった上で、それでもやっぱり

統合した方がいいのかそうではないのか、在り方や持っている資料のうちどういったものを展示するかなどをもう少しそれぞれの館について議論を深めることが必要なのかなと思った。

○池亀 睦子委員

- ・ 意見が出尽くしているが、まず公共施設の在り方ということについてやっぱり今一度——いろんな国から発信されているものもあるが——もう少し市民の幸福感にどう繋がっていくのかというところをよくよく検討された上で着手していかなくてはならないということを2つの施設を通して感じた。
- ・ 私はちょっと用事があって東京で皆さんと別れ、次の日に東京国立博物館に、せっかくこうやって今調査しているのでちょっと行ってきた。ちょうど今は、予約しないと入れない国宝展をやっていたので、上野公園、上野動物園、国立科学博物館、あの辺の構図とかも併せて見てきた。国立ではあるが、やはり函館がこれからこういう公共施設を着手していくときに、子供の遊び場がないとか若者が過ごすところがないとか、そういうことをいろいろと総合的に考えた中でやっていく必要があるなという思いを深くした。何か残っているものの展示だけに、保存だけに力を入れるというのはもう基本だと思う。ただその博物館を建てる中で、どう総合的に環境をつくるのか、いろんな世代の市民が楽しめる場所にしていくのかを教育委員会だけが考えていくのではなくて、私はやはりきちんと検討委員会を設立するとかあらゆる角度から検討して、そして市民の声をしっかり生かして形にしていく必要があると思う。
- ・ 今後は函館市の財源、財政もしっかり見据えた上でも当然やっていかなくてはいけないことだ。
- ・ 神戸では素敵なカフェで皆さんが本当にくつろいでいた。ミュージアムショップでははがきでも本当に綺麗に展示して、買い物できるような形になっていた。だから収益を上げる部分、そして展示をしていく部分、レガシーを継承していく部分、その辺をしっかりと十分に検討してやっていかなくてはいけないなと非常に感じて帰ってきた。
- ・ 教育委員会としても、多分こういう展示物と呼んで市民の皆さんに楽しんでいただきたいと思っても、今の状況では展示すら思うようにいかないし、障がい者や高齢者になかなか配慮できない状況にある。そういう意味では、今は何も検討に入れないような状況で、今あるもので定期的に企画展をやるぐらいの感じだ。だから市民のリピーターを増やしていくことが本当になかなか難しいと思う。
- ・ 博物館の在り方としては、建物の見直しは必要だ。しかし、市民の様々な今のニーズを少しでも生かした方向にどれだけ行けるか、その辺をやっぱり十分検討していく必要があるということ、それから財源が非常に心配だということだけちょっと申し上げておきたいと思う。

○吉田 崇仁委員

- ・ 私は、今博物館の運営の在り方が大きく変わってきていると思う。なぜかというと、実は名古屋に行く前——10月30日に、札幌で国宝・法隆寺展があったので行ってきた。前にも一度行ったことがあるが、札幌までわざわざ国宝を持ってくるのかと思って、見たくて、興味を持って行ってきたが、すごい人出だった。びっくりした。大変な人出で、列をつくって入っていくが、なかなかゆっくり見られないくらい混んでいた。ところが、展示会場を出た後に、ショップで例えば法隆寺の瓦せんべいとか干し柿、そういうものが飛ぶように売っていた。だから、入館料と合わせてものすごい経済効果が出ているので、もうただ並べて貴重な文化財を見せる時代はもう終わったよと、いろいろ新しい魅

力を作っていかなければならないのが今後の博物館ではないかと感じた。

○遠山 俊一委員

- ・ 先ほど小山委員と道畑委員からお話があった5館の統合の問題で、私も両市に質問したが、どちらの施設でも統合する意思はないということだった。
- ・ 私はあれだけの人口規模の都市だからこそ、統合しなくてもそれぞれがきちっとした集客を得ながら維持できているのかなと感じて、それには納得した。ただ函館市の現状を考えたときに、事前にもらっていた資料の中で各館の入館者数を考えたときに、果たしてこれは単独で維持していけるのかなということが1つと、新たに博物館を建設するときにそれらが統合されなかったことによる市民の理解が得られるのかなということを2つ感じて帰ってきた次第で、統合する、しないに関してはその人口規模が大きく作用するのかなと感じてきた。

○小山 直子委員

- ・ 建物が大きい小さいだけでなく、教育機関との連携が両館ともすごく進んでいるなどと思った。名古屋の方は、子供たちがタブレットを持っているので、博物館で収蔵している資料についてはある程度そのタブレットでも見られるようにしているということだ。それから、神戸の方は体験学習室があることや、教育委員会の指導主事がこの博物館に関わっているということで、出前講座でずいぶん学校に行き講座を開いている。このことは、今まで皆さんがおっしゃった本当に収蔵しているものをただ展示するだけではなくて、これからの子供たちにそういうものに触れながら、将来、どういうまちづくりをするのか、どういう生き方をするのかという、そういうこれからの生き方を問うようなものに博物館がなってきているというところで、今博物館法が改正したので、両館とも展示だけの博物館ではないと。本当にまちを生かすための博物館だったり、それから吉田委員がおっしゃったように今までは経済力が文化とか芸術を支えていたが、これからは芸術が経済社会の在り方を変えていく時代だというお話で、本当に経済効果というものも考えながら計画をきちっと立てていく必要があると思う。

○道畑 克雄委員

- ・ 5館の話になるが、私も別に5館がいいのか1館にするのかみたいなオール・オア・ナッシングで考えるべきではなくて、当然経営が成り立たないものを存続させるわけにもいかない。現状のままで、これ以上どうにもやりようがないかどうかということは1回検証してみる必要がある。その上で財政的なことも含めて、入館者数の見込みも含めて判断すべきだと思う。もうちょっと考える余地が残っているのかなという思いは持っているので、その点を付け加えておきたい。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 私も名古屋と神戸と見学させていただいて非常に勉強になった。その前に函館の5館を見学してから調査できたので、比較できてとてもよかったと思う。
- ・ 根本的に違うのが収蔵庫の在り方で、函館の場合は夏暑く冬寒い収蔵庫で、温度管理もできず何か物品庫みたいところに収蔵されているあいった宝を見て非常に残念だったが、他のところでは収蔵庫の耐火構造とか空調管理、湿度管理は当然のことで、そこがまず全く違うということが分かった。特に停電時の発電室も名古屋では完備されていた。老朽化、老朽化といっても函館の老朽化と名

古屋の老朽化では全く違って、根本的にそこが違うなど非常に勉強になった。

- ・ 神戸は古い銀行——横浜正金銀行神戸支店の建物をリニューアルして、リニューアルの金額が14億円で、名古屋は171億円。この違いはすごいなと思ったが、ただ博物館のリニューアルや新築が進まない理由に、国からのお金が一切ないからなのだと、その中で市債を使っていかなければならないというあたりでは、どこの自治体もきっと大変なのだというふうに思った。その金額のことをまず1つ大変だと思って帰ってきた。
- ・ 特別展について、出村委員長の計らいで先日まで展示していてまだ片付いていない中国の兵馬俑を見せていただいた。何かこう体が震えるような、そのような感動もしたが、ああいう特別なテーマで観光客も市民も呼べる。それこそ先ほど札幌でも人でごった返したというような話もしていたが、そういう集客はできる。しかし、函館は収蔵庫が全く機能していないので、そういう大事な国宝や世界の宝物を見ることも呼ぶこともできないというところがまず1つあるなと思った。
- ・ 障がい者への配慮だが、それぞれ名古屋も神戸も力を注いでいる。神戸では、トイレが汚い、和式しかないとか、そういう厳しい御意見があってリニューアルしてきたということで、身体障がい者だけでなく、視覚障がい、聴覚障がいの人たちへの配慮というあたりはまだこれからだと思ったが、ただ視覚障がいの人に遺跡を触ってもらうというそういう体験コーナーもあったので、それは工夫しているなと思っていた。
- ・ 名古屋の市民利用率が53%で、リピート率が66%ということで、本当に市民に愛されている博物館だということが分かった。
- ・ 神戸は、リニューアル後に高校生、大学生の入館料を減免して小・中学生は無料にしたということで、若年者の入館者数が増え、コレクション展—フランシスコ・ザビエルの肖像画を子供たちが見に来る機会も増えたというふうに言っていた。
- ・ 先ほど、皆さんからも意見が出た博物館法が変わって、ただの展示ではなく観光客にも利用されるような、そしてまた、市民もリラックスできるカフェだとかキッズコーナーだとかそういう市民にアピールできるような展示の方法、入館する方法、そういうことを皆さんすごく頑張っているなということで、函館市の5館を1つにするという考え方よりも、まずは本館を何とかしなければ、これは急ぐ問題だというふうに私は思って帰ってきた。
- ・ 名古屋は、長年市民の皆さんの意見をネットで調査したり調査票を郵送したり、タウンミーティングを行うなど、いろいろな方法で聞いているので、函館市ももし、総合ミュージアムをつくるのであれば、市民の意見を——今も50団体から意見を聞いているということだが——聞いていくということをしっかりやっていただきたいと思う。
- ・ 本館と分館の統合のことだが、名古屋も一つ一つが魅力ある分館で、それぞれ違いがあって地元から愛されているので、統合なんて何で考えるのかという口ぶりで言われたが、私たちも見てきたが函館市の場合も一つ一つやっぱりもうちょっと掘り下げて、市民との必要性も含めて検討していかなければいけないなと、5館をただ1つにという乱暴な考え方はもうやめた方がいいと私は思って帰ってきた。

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 一通りお伺いしたが、他の委員の御発言を踏まえてさらに何か御発言ないか。

○池亀 睦子委員

- ・ さっき申し上げたが、中央図書館ができてあそこにカフェができて常にいろんな方がカフェでくつろいでいるのを行くたびに見かける。だからやっぱりこういうスペースは、今後博物館を見直していく上ではこれは絶対に必要なところだということは申し上げなければならないと思っている。公共施設でみんなが素晴らしいものを見る機会とくつろげるというそういう部分をしっかり兼ね備えていくということも必要だと思う。
- ・ さっき5館を1つという点はあえて申し上げなかったが、やっぱりそれはもっともっと検討が必要だと思った。新しいものを建てるにしてもスペースが厳しいので、その辺をしっかりと分析して、そして市民の声を聞いて総合的に考えていかななくてはいけない。
- ・ 先ほど小山委員からも出たが、アクセスの問題はやっぱりみんなが訪れやすい場所である必要がある。私はアクセスはどうかと両方の職員の方に必ず質問したが、ここはいい、いろいろなところから来やすいというふうに両方から言われたので、そこはやはり重要な検討事項だというふうに思ったので付け加えて言っておく。

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 他に御発言ないか。（なし）
- ・ 今後の調査の進め方についてだが、正副としては、次回以降の委員会でこれまでの調査や本日いただいた意見を踏まえて、今後の取り組みの方向性について取りまとめた案を正副で作成させていただき、皆様と協議を行ってまいりたいと考えているがよろしいか。（異議なし）
- ・ その他、本件について、各委員何か御発言あるか。

○遠山 俊一委員

- ・ 行政調査とは直接関係ないので、あえてその他で意見を述べる。市立函館博物館があつて今回、教育委員会から総合ミュージアム構想という言葉で資料配付があつた。これは博物館なのかミュージアムなのか、どこかできちっと議論しないと何か知らないうちにミュージアムになってしまう気がして、これが1つ気になっていた。
- ・ 経済建設常任委員会で、「棒二森屋跡地公共施設整備にかかる市民説明会」における意見等についてという配付資料の中で、駅前・大門地区にあつたらいいと思うお店やサービスなどはあるかという質問に対して、買い物や飲食に関するものが多く望まれていたが、その他の少数意見の中に函館歴史を楽しく学ぶ場としての博物館という意見が出ていた。先ほど出た財源の問題やアクセスの問題を考えたときに、私は面積がどれくらいあるか把握していないが、例えばアネックス館を、あそこは津波の浸水区域なので例えば1階を総合観光案内プラスカフェにしたりして、2階もしくは3階から博物館にするようなそういう方法も可能性としてはあるのかなと資料を見ながら感じた。

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 閉会中に委員会が行った調査については、次の定例会で報告することとなるが、委員長の報告文については委員長に一任願いたいと思う。これに御異議あるか。（異議なし）
- ・ 議題終結宣言

2 その他

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何かあるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時39分散会